

## 刊行のことは

愛知県水産業振興基金は昭和 54 年 3 月に発足し、以後 35 年にわたって、水産物の安定供給と水産業の発展を目的とした諸事業を推進してきました。伊勢・三河湾および遠州灘を擁する本県の水産業では、小型機船底びき網漁業が大きなウエートを占めており、その主要な漁獲対象となるクルマエビ類の資源管理には、とりわけ積極的に取り組んできました。昭和 54 年度からは、愛知県水産試験場の試験結果をもとに、本県栽培漁業センターにおいてクルマエビ種苗の大量生産が開始されました。開始当初から年間 2,000 万尾以上が生産され、県内の適地で放流されています。また、平成 17 年からは、湾内で操業する漁業者の強い要望により、クルマエビよりも定着性の強いヨシエビの種苗を年間 400 万尾放流しております。このように本県は、全国有数の規模でクルマエビ類の種苗放流を行い、資源の維持・増大に努めています。

しかし、近年の水産業をとりまく環境は大変厳しく、漁業者の高齢化、後継者不足および資源の減少など、多くの問題が山積しています。全国的に低迷するクルマエビの漁獲は、本県も例外ではなく、漁獲量が盛時の 5 分の 1 以下にまで減少しています。一方、資源の支えとなる種苗生産や放流の現場では、施設の老朽化や財政状況の悪化などの問題に直面しており、これまで以上の効率化と新たな技術の開発が求められています。

このような栽培漁業が抱える諸問題に対応するため、第 6 次栽培漁業基本方針では、魚種によっては、国、水産総合研究センター、県、栽培漁業関係団体が適切な役割分担で広域的に連携し、栽培漁業を推進する体制が提唱されました。当基金では、愛知県、三重県、水産総合研究センター、三重県水産振興事業団、日本総合科学とともに平成 22～25 年度に農林水産省の「農林水産業・食品産業科学技術研究推進事業」を受託し、都道府県の枠を超えてクルマエビ類栽培漁業の新たな実用技術の開発に取り組んできました。この共同研究は、長らくクルマエビ栽培漁業の障壁となっている、種苗生産における採卵の効率化と放流効果の正確な判定を同時に解決することで、栽培技術の高度化を図るものです。4 年間の研究により、放流した稚エビを正確に識別できる遺伝標識や、放流用種苗の生産に適した人為催熟技術の開発など、多くの成果が得られています。

本書は、この事業の研究成果を中心に、クルマエビ類の成熟、産卵と採卵技術をガイドブックとしてとりまとめたものです。ここでは、クルマエビ類における種苗生産の歴史、繁殖の生態・生理、採卵技術およびウイルス感染症の防除など、これまでの知見が幅広く解説されています。本書が、クルマエビ類の栽培漁業に携わる全国の関係機関において、資源増大の一助となれば幸いです。

おわりに、本事業に 4 年間の支援をいただいた農林水産省、実施にあたり適切な助言をいただいた日本大学生物資源科学部の朝比奈潔教授と専門プログラムオフィサーの若林久嗣先生、そして、本書に寄稿いただいた各著者に、心よりお礼申し上げます。

平成 26 年 2 月

公益財団法人 愛知県水産業振興基金  
理事長 石井 吉夫